

## 【議事要旨】第5回 AI ロボティクスに関する関係府省連絡会議幹事会

### 1 日時

令和8年5月22日（金）11:00～12:00

### 2 場所

内閣府合同庁舎8号館8階共用特別大会議室

### 3 出席者

#### <議長>

西山 英将 内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）

#### <副議長>

石曾根 智昭 経済産業省製造産業局産業機械課ロボット政策室長

#### <主査>

岡部 涉 内閣官房日本成長戦略本部事務局参事官

菅田 洋一 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官

#### <構成員>

神崎 忠彦 内閣官房内閣参事官（内閣官房副長官補付）

清橋 秀聡 （代理）内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（政策調整担当）付参事官補佐

塚田 裕介 （代理）内閣府政策統括官（防災担当）付参事官

（防災デジタル・物資支援担当）付参事官補佐

藤森 大輔 （代理）警察庁生活安全局生活安全企画課生活安全産業室長

（代理）こども家庭庁長官官房総務課サイバーセキュリティ・情報化企画官

千葉 周平 消防庁総務課技術戦略室長

澄川 雄 文部科学省研究振興局基礎・基盤研究課長

和泉 誠人 厚生労働省医政局医事課医師等医療従事者働き方改革推進室長

磯谷 桂太郎 （代理）社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課課長補佐

村中 秀行 厚生労働省老健局高齢者支援課介護業務効率化・生産性向上推進室長

阿部 尚人 農林水産省大臣官房政策課技術政策室長

田岡 卓晃 経済産業省大臣官房産業保安・安全 G 保安政策課長

荒川 洋 経済産業省製造産業局製造産業戦略企画室長

平林 孝之 経済産業省商務・サービス G 流通政策課長兼物流企画室長

大石 知広 経済産業省商務・サービス G 医療・福祉機器産業室長

能登 眞澄 （代理）国土交通省大臣官房参事官（イノベーション）G 施工企画室課長補佐

林 健一 国土交通省総合政策局技術政策課技術開発推進室長

杉本 留三 環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課長

濱野 健二 （代理）防衛装備庁技術戦略部技術戦略課 AI 技術室長

#### <オブザーバー>

大西 祥浩 （代理）総務省国際戦略局技術政策課技術革新研究官

#### <事務局>

奥家 敏和 経済産業省大臣官房審議官（商務情報政策局担当）

#### <関係者>

山崎 隆之 (代理) 警察庁長官官房技術企画課先端技術導入企画室長  
船井 雄一郎 厚生労働省労働基準局安全衛生部安全課建設・個人事業者安全対策室長  
大塚 裕一 農林水産省大臣官房新事業・食品産業部食品製造課  
原材料調達・品質管理改善室長  
金安 淳美 (代理) 国土交通省住宅局住宅生産課課長補佐  
氏原 拓 復興庁福島国際研究教育機構室参事官

#### 4 議事要旨

##### ○開会

##### ○議事

###### • AI ロボティクス戦略を踏まえた政策パッケージ案について

副議長から、AI ロボティクス戦略を踏まえた政策パッケージ案の全体像について説明がなされた。説明の概要は以下の通り。

- AI ロボティクス活用の推進に向けては、供給側の開発基盤整備と需要側の導入環境整備を一体的に進め、両者を循環させる政策パッケージとして推進する必要がある。
- 供給側では、開発プラットフォームや AI 基盤、重要コンポーネントの量産支援等により開発効率の向上を図るとともに、需要側では先行領域における導入支援、安全認証・ルール整備、人材育成を進める。
- さらに、センター・オブ・エクセレンス (COE) を中核として、実証・データ収集・AI 高度化を循環させる基盤を整備し、政府全体の成長戦略に位置付けていく。

###### • AI ロボティクス戦略実装ロードマップの改定について

副議長から AI ロボティクス戦略の改定について、説明がなされた後、出席者から、AI ロボティクス戦略の実装ロードマップの改定について発言がなされた。主な発言の概要は以下の通り。

- 製造・物流分野では、中小企業を中心とした導入コストや人材不足が共通課題として指摘され、開発基盤や共通インターフェース整備、AI-Ready 化の推進により対応する必要性及びデータ統合とプラットフォーム化による生産性向上の重要性が共有された。
- 建設・造船・建築分野では、現場条件の多様性や導入効果の不透明性が課題であり、実証によるユースケースの蓄積と標準化、施工・運用基準の整備及び技能伝承やデータ活用を含む中長期的な高度化の必要性が共有された。
- 小売・宿泊・介護といったサービス分野では、収益性の低さや小規模事業者が多く導入負担が大きく、費用対効果の見える化と標準化、人材育成が重要とされた。また、プライバシーや安全性、個人情報取扱いなど制度面の課題への対応の必要性が指摘された。
- 警備、警察活動、防衛、災害対応等の公的部門では、危険環境対応や人員不足対策とし

でのロボット活用の重要性が確認された一方、需要の限定性や高コスト、運用ルールや安全基準、指揮命令系統との整合などの制度課題が共有され、段階的な導入と実証を通じた運用知見の蓄積の重要性が示された。

- ・ 農林業、廃棄物処理、インフラ保守分野では、屋外・非構造環境や作業リスクの高さ、データ不足、通信制約等の課題が指摘され、危険工程を起点とした導入、データ整備、標準化、技術連携の推進が必要とされた。
- ・ さらに、全分野に共通する課題として、安全規制や認証の在り方について関係省庁横断で検討を進める必要性が確認されるとともに、実証環境を活用した技術検証とデータ蓄積の重要性が共有された。

本日の議論を踏まえ、5月27日の第三回関係府省連絡会議に向けて適切に反映していく。

○閉会